



2019年4月、約30年ぶりにレジ袋のデザインをこのように変更しました。
一つひとつの絵にメッセージ性を持たせ、社会や環境の中での循環を表現しています。

社会環境報告書2019

Contents

・ごあいさつ	1	・省エネルギー対策・CO ₂ 削減	6
・経営理念・ISO14001認証を 取得しています	2	・社会貢献活動	7~10
・商品のライフサイクルを通した 環境配慮	3~4	・イキイキと働ける職場	11~12
・レジ袋を減らすために	5	・コミュニケーションを大切に	13
		・環境活動・社会貢献活動年表	14



ごあいさつ



昨年2018年は、当社の創業55周年の年でありました。東京都世田谷区に第1号店を開店してから、お客様、お取引様を含む多くの関係者の皆様に支えられて、現在では115店舗を展開するまでとなりましたことを、この場を借りて御礼申し上げます。

この「社会・環境報告書2019」を作成するにあたり振り返ってみると、小売業として商品を販売する以外でも、皆様と体験を共有する機会が大きく増えてきたと感じております。

今年で37回目となる「ママとルンルン夏休みツアー」(P9参照)や、1990年に開始した「大宮八幡宮杉並花笠祭り」(P10参照)など、当社の社会・地域貢献を代表する取組みは様々ありますが、近年ではこれまで以上に地域の方々との接点を増やし、サミットが「買い物の場」だけでなく「楽しみを共有する場」となれるよう意識をしてまいりました。

例えば、地元世田谷区をホームタウンとしている女子サッカーチーム「スフィーダ世田谷FC」とのスポンサー契

約に際しては、お客様を冠試合やサッカー教室にご招待しておりますし、店舗ではお取引先様のご協力を得ながら料理教室や販売体験等を行ったりしております。

2019年はそれに加え、新たに「サミットの森」にてお客様の植樹体験ツアーが始まりました。これは、当社が2006年から山梨県丹波山村で行っている「サミットの森」森林整備活動の第3期目にあたる5ヵ年計画の内、植樹作業をお客様と共に体験するというものです。既に今年計画している4回のツアーの内、2回を実施いたしましたが、「貴重な体験ができた」「サミットが様々な取組みをしていることがわかった」と大変ご好評をいただきました。

「サミットに行けば、何かいいことがありそう。」食卓のパートナーであり、楽しみを共有できるコミュニティでもある、そんなスーパー・マーケットを目指し、励んでまいる所存でございます。今後とも、更なるご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 竹野 浩樹

経営理念

サミットの生みの親である住友商事が属する住友グループには約400年にわたって受け継がれてきた住友の事業精神があり、その中に「信用を重んじ、いやしくも浮利を追わず」という教えがあります。サミットはこの教えを、小売業として次のように置き換えました。「企業を取り巻くすべての人々に対して、『嘘の無い仕事』をすること。」具体的には、

- ①すべての商品について品質・日付・価格などのごまかしをしない「嘘の無い商売」
 - ②バイイングパワーに物を言わせるような強引な商売でなく、お取引先と共に栄する商いをする「誠実な対応」
 - ③社員に対するいかなる差別も止め、勤務時間・休日についても約束したとおりの待遇をする「公正な待遇」
- これらは、お客様、お取引先、社員に対するサミットの約束です。



ISO14001認証を取得しています

サミットは、企業活動に伴う環境負荷を低減し、また社会貢献活動を推進するため、2005年、環境マネジメントシステムの国際認証「ISO14001」を本部および全店で取得しました。以降は、毎年定期審査を受け、新店を認証範囲に追加すると共に、システム全体の継続的な改善に努めています。



環境方針

サミットは、地域のくらしを支えるスーパーマーケットとして、お客様と共に持続可能な社会を目指し、環境への配慮を徹底します。

1. 環境マネジメントシステムを経営と一体化させ、その仕組みと成果の継続的な改善を目指します。

重点的に取り組むテーマは、つぎの3点です。

- (1) 省エネルギー、省資源
- (2) 廃棄物の削減とリサイクルの推進
- (3) 商品のライフサイクルを通した環境配慮

2. 環境保護のため、汚染の予防に努めます。また、環境関連の法規制および当社が受け入れを決めた要求事項を遵守します。

3. 地域社会との共生をはかり、環境分野における社会貢献活動に努めます。

4. 環境方針および当社の環境活動を、広く社内外に公表します。

商品のライフサイクルを通した環境配慮

商品のライフサイクルとは、商品が生産されてからお客様宅で消費されるまでの「商品の一生」日々の業務を通じて、店舗の環境負荷だけでなく、産地や物流、お客様宅での環境負荷も低減

商品の ライフ サイクル



産地・メーカー・物流

納品までの環境負荷を減らそう

不揃い野菜もまとめて仕入れ

食品ロス削減
に貢献

味に問題はないのに、小さなキズやサイズの基準未達で産地が販路に困っている野菜もまとめて仕入れます。「不揃い野菜」として販売したり、店内で手作りするサラダや総菜の原料に使用します。



地元野菜で輸送距離短縮

CO₂削減に貢献

店舗近隣の農家さんから直接納品される野菜は、遠方の産地に比べ輸送距離が短く、輸送に伴うCO₂の削減につながります。お客様からも「地元の野菜が買える」と好評です。



物流の効率化

CO₂削減に貢献

店舗には毎日何台ものトラックで商品が納品されます。物流の効率化を図り、納品回数を減らすことで、輸送に伴うCO₂を削減しています。

販売時の環境負荷を減らそう

廃棄物のリサイクル

廃棄物の削減に貢献

廃棄物の種類	排出量	リサイクル率	リサイクル後の用途
生ごみ	6,492t	30%	肥料・軽量土壌材等
廃油	626t	100%	飼料
肉脂	352t	100%	飼料
魚腸骨 (魚のエラワタ)	1,561t	100%	飼料
ダンボール	17,886t	100%	ダンボール
紙ごみ	1,404t	54%	トイレットペーパー
ビン	17t	100%	ビン
缶	48t	100%	缶
発泡スチロール ・トレイ	768t	100%	プラスチック製品の原料
廃プラスチック	1,776t	0%	-
合計	30,930t	77%	-

保鮮庫で鮮度維持

食品ロス削減に貢献

野菜や果物は、水分が蒸散すると鮮度が落ちてしまいます。サミットでは、野菜を低温と湿度を保った「保鮮庫」に保管し、必要な量だけ加工して売場に陳列します。閉店後も、一部商品は保鮮庫に戻して水分を補給し、鮮度を維持します。



のこと。サミットは、そのちょうど真ん中に位置しているため、できるのではないかと考えました。





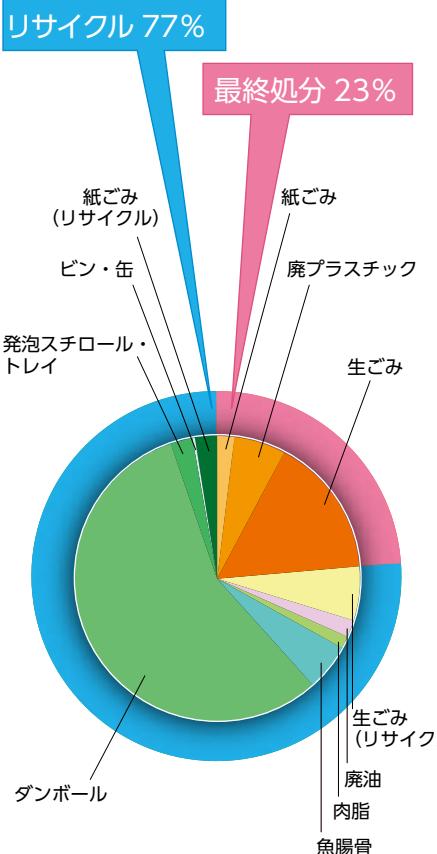
サミット



お客様宅

販売後の環境負荷を減らそう

リサイクル 77%



- 紙ごみ(リサイクル)
- ビン・缶
- 発泡スチロール・トレイ
- 生ごみ
- ダンボール
- 生ごみ(リサイクル)
- 廃油
- 肉脂
- 魚腸骨
- 最終処分 23%
- 紙ごみ
- 廃プラスチック
- 生ごみ

店頭での資源回収 家庭ごみ削減に貢献

リサイクル可能な資源ごみは、ぜひサミットの店頭回収にお持ちください。

品目	2018年回収実績
ペットボトルキャップ	89t
発泡トレイ	112t
アルミ缶	58t
ペットボトル	535t
紙パック	285t



総菜を賢く活用 家庭ごみ削減に貢献

「食材を使いきれない」「生ごみの始末がめんどく」と感じる時は、ぜひサミットの総菜をご利用下さい。売場で販売している生の素材を店内で調理した商品も多く、作り立てが美味しいと評判です。





容器の削減 資源の節減・家庭ごみの削減に貢献

青果や総菜売場を中心に、容器を使わないバラ販売を増やしています。また容器自体を軽量化したり、袋詰めに変更したりするなど、容器の削減に努めています。2018年12月に新設したプロセスセンターには高速ノントレイ包装ラインを導入しました。



レジ袋を減らすために

お客様にご協力いただきながらレジ袋の削減に取り組んでいます。

マイバッグ持参をお願いします

レジ袋削減のため、1991年に「お買い物袋持参運動(スタンプサービス)」を開始し、2002年からは、レジ袋をご辞退いただいたお客様のサミットポイントカードに2ポイント(2円相当)をお付けしています。2018年度のマイバッグ持参率は31.8%でした。



レジ袋の有料化

2007年1月、東京都杉並区とのレジ袋削減の協定に基づき、同区の成田東店でレジ袋の有料化を開始しました。その後も、2008年4月に施行された杉並区「レジ袋有料化等の取組を推進する条例」を受け、現在、区内全9店舗で有料化を行っています。マイバッグ持参率は、いずれの店舗でも実施前の30%台から70~80%台になりました。

マイバスケット

レジ係が精算済みの商品を直接「マイバスケット」に入れるので、そのままお持ち帰りいただけて便利です。車で来店されるお客様が多い店舗で販売しています。



持ち手付きでレジ袋不要

持ち手付きでレジ袋を使わずに持ち帰ることができるお米を販売しています。お取引先の協力を得て改良を重ね、丈夫で手が痛くなりにくい持ち手を採用しました。



オリジナルエコバッグ

いろいろなデザインが楽しめます

不織布製のオリジナルエコバッグを95円(本体価格)で販売しています。たっぷり入り、肩にかけることができる所以、重い物を買っても楽に持ち運びができます。2019年4月に第29弾の発売を迎え、2011年のシリーズ開始より累計23万枚以上を販売しました。



▲2019年4月
発売デザイン

武蔵野美術大学とのコラボプロジェクト

2018年の創業55周年記念事業の1つとして、武蔵野美術大学芸術文化学科の皆さんにサミットオリジナルのエコバッグを監修していただくプロジェクトを立ち上げました。1年間の授業を通して、サミットの考え方やバッグ利用者の要望を研究し、機能性に優れ洗練されたデザインのエコバッグ制作に取り組みます。2019年度に発売する予定です。



省エネルギー対策・CO₂削減

店舗の電力使用量の5～6割を占める冷蔵・冷凍設備、1～2割を占める照明を中心に省エネを進めています。

冷蔵・冷凍ショーケースの工夫

ショーケース内部には、従来、各棚に照明が設置されていましたが、ケース全体を外側から照らす照明に替え、本数を減らしています。また、発熱量が少ないLED照明にすることで、冷蔵・冷凍設備への負担を減らし、省エネを図っています。その他にも、冷気を逃がさないよう、冷凍ショーケースに扉を設置し、消費電力を1割～4割削減しています。扉のないショーケースにはカーテンが付いており、夜間は閉めて冷気を閉じ込めます。



照明の省エネ

蛍光灯に比べ消費電力の少ないLED照明への切り替えを進めています。2018年度に16店舗に導入したこと、8割以上の店舗で切り替えが完了しました。対象の店舗では、店舗全体の電気使用量を約10%削減することができました。



デマンド監視装置

2015年より、電力需要監視装置を導入し、現在約7割の店舗で活用しています。使用電力が目安の数値に近づくと警報が鳴るので、店長が予め定めた機器類の電源を停止させる仕組みです。導入した店舗では、それ以前に比べ、需要が最も高い夏場の電力需要が前年比約94%になりました。



太陽光発電の採用

成城店、横浜岡野店、野沢龍雲寺店では、建物壁面に設置したソーラーパネルで発電し、店舗の一部照明に使用しています。発電電力量は店内のモニターで確認することができます。



新電力の活用

2017年より、20店舗で使用する電力を新電力会社から購入しています。電力会社によりCO₂排出係数が(※)が異なるため、切り替えによって、電気の使用に伴うCO₂排出量を減らすことが可能です。

※電力会社が電力を作り出す際にどれだけのCO₂を排出したか算出するための指標

冷凍設備の圧力制御

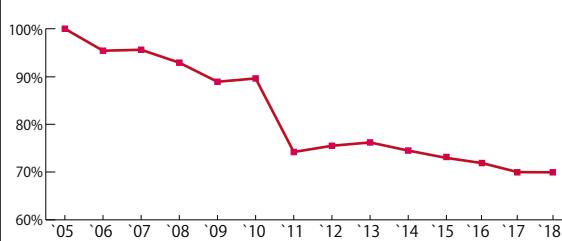
冷凍設備の集中コントロール盤で冷媒ガスの圧力をコントロールし、少ない消費電力で効率よく運転しています。



2018年度電気使用量

全店の使用量……………206,307,061kwh
原単位当り(※)の使用量…………0.105kwh/m²・h
※店舗面積1m²・1営業時間当り

■電気使用量('05年度比)



社会貢献活動

お買い物以外でも、ぜひサミットへ。お客様、お取引先と一緒に、「楽しく」「学び」「参加」できる

都市と農村の架け橋を担って

山梨県北都留郡丹波山村にて、「サミットの森」「サミットファーム」の活動を行っています。

第3期「サミットの森」活動開始

サミットは、2006年より「サミットの森」森林整備活動を実施しています。丹波山村は多摩川の水源地域に位置しており、林業の担い手不足が課題となっています。この村で森林整備をお手伝いすることは、東京の水源を守ることにつながると考え支援を開始しました。第1期・第2期の「サミットの森」では村有林の間伐を中心とした整備を行い、10年間で延べ1,650人の社員とその家族が活動に参加しました。2019年からは、第3期「サミットの森」がスタートしました。数年前に伐採し放置されていたエリアに、5年間かけて地元で多く見られるミツバツツジやカエデ等を植樹する計画です。年に4回、植樹体験ツアーの参加者を募集し、お客様と一緒に作業を行います。



「サミットファーム」

「サミットの森」で交流を深める中、高齢化による「耕作放棄地」の増加が問題となっていることがわかりました。当社は、社員が農作物の生産工程を理解することが重要だと考えていたので、それらの耕作放棄地を活用し、2015年より社員が農作業を行う「サミットファーム」の運用を開始しました。開墾から、植え付け、収穫まで、一通りの作業は、地元の協力を得ながら、社員研修・ボランティアが行います。慣れない作業は重労働ですが、「野菜を育てる」ことを肌で感じができる貴重な体験となりました。この体験をもっと多くの方々と共有したいと、2017年からはお客様向けの収穫体験ツアーも開始し、2018年は6回のツアーを実施しました。



丹波山村での活動を始めて14年、「サミットの森」「サミットファーム」の活動は拡大し、2019年は延べ23回のお客様ツアー、社員研修・ボランティア等の活動を予定しています。

様々な活動を行っています。



スフィーダ世田谷FCをサポート

サミットは、「日本のスーパーマーケットを楽しくする」という事業ビジョンのもと、お客様、お取引先、社員が一体となって応援ができるスポーツをサポートしたいと、2017年8月、「スフィーダ世田谷FC」とスポンサー契約を締結しました。このチームは、日本女子サッカー「なでしこリーグ」2部に所属しており、当社の出店エリアである東京都世田谷区をホームタウンとしています。多くのお客様に地元チームとして親しみを持っていただけるよう、店頭のぼりで選手を紹介し、ポスターやチラシで試合スケジュールを案内します。当社の冠試合は、サミットのチラシをご持参いただくことで入場無料と、たくさんのお客様にご来場いただきました。また、昨年の夏休みにはスフィーダ世田谷FC選手とコーチによるサッカー教室を催し、抽選によって選ばれた40名の小学生を招待しました。



▲年2回のサミットマッチには、たくさんのお客様・お取引先にもご来場いただきました。



▲店舗でも試合でも、皆が一丸となって応援します。



▲サッカー教室では、当社在籍選手による指導に子供達のまなざしも真剣です。

子供達の体験学習をお手伝いします

ママとルンルン夏休みツアー

小学生と保護者の方々をお取引先の工場や当社が取り組む「サミットファーム」にご案内します。現地で見学・学習した後は、レジャー地での自由時間もあり、丸1日楽しめる充実したツアーです。36回目となる2018年は20コースをご用意し、約960名のお客様を招待しました。



店舗見学・体験学習

小学校の店舗見学や、中学生の職場体験学習を受け入れています。2018年度は、店舗見学に242校、職場体験に256校からの申し込みがあり、延べ2万人を超える児童・生徒の皆さんが出張を見学されました。また、小学生と保護者の方を対象とした親子店舗見学会も行っています。商品の加工から販売までの流れや、衛生管理、環境への配慮について説明するほか、パック詰めやレジ打ち体験等もあり、「サミットの裏側が楽しく学べる」とご好評いただきました。その他にも、夏休みの特別企画として、小学生による販売体験を57店舗で行いました。子供達は、商品の特徴を学び、発声練習を行った後、売場に立ちます。緊張しながらも元気に接客する子供達に、声をかけてくださるお客様も多く、地域の絆が深まる企画となりました。このような活動が評価され、2018年11月、神奈川県より「第12回 子ども・子育て支援奨励賞」を授与されました。



沖縄県との強い絆

毎年7月に「沖縄フェア」を実施し、県産品の販売や沖縄料理レシピの紹介をしています。県の産業振興やサンゴ礁再生の支援にも取り組み、2014年には、沖縄県と地域の活性化に協働で取り組む「ゆいまーる協定」(※)を締結しました。フェア実施時には店頭で琉球舞踊エイサーの演舞やシーサーづくり教室を行い、お客様に沖縄文化を体験していただいています。フェアの売上的一部分を沖縄サンゴ礁再生のため「(有)海の種」に寄付しており、2018年は850,000円を寄付しました。

※県産品の拡大販売や観光等の振興、地域の活性化につながる施策について協働で取り組むことを示した協定。



赤ちゃん木育広場

2018年6月、サミットは東京都品川区の施設と区内で活動する子育て支援団体等に、「赤ちゃん木育おもちゃ」15セットを寄贈しました。この活動は、国産木材を使用したおもちゃでの遊びを通して、赤ちゃんに豊かな感性を育んでもらい、保護者の方々には「森づくりの大切さ」を感じていただきたいと考えて、東京おもちゃ美術館、公益財団法人オイスカと共に実施したものです。寄贈に伴い、親子の遊びをサポートするためのインストラクター講座も開催し、月齢に応じた遊び方も案内しています。



被災地の支援

「平成30年7月豪雨」「平成30年北海道胆振東部地震」で被災された方々のお役に立てていただきようと、店頭で募金を行いました。寄付金額は次の通りです。

- ・2,936,875円 日本赤十字社へ寄託
- ・1,894,374円 北海道東京事務所へ寄託

行政と一緒に

たくさんのお客様がお買い物に来るスーパーマーケットは、情報発信の場としても大きな役割を果たします。都道府県や地方自治体と協力し、楽しく学んでいただく機会を増やしています。

環境にやさしい「お買い物体験講座」

東京都世田谷区による「世田谷区2R推進会議」が企画し、地元小学校4年生の皆さんに体験していただいた講座です。子供達は、事前に商品を選ぶポイントを学習後、売場にて包装が少ない商品やごみが出にくい商品等を購入し、学校に戻ってまとめと発表を行いました。



大宮八幡宮杉並花笠祭り

毎年12月、当社本部がある東京都杉並区の大宮八幡宮で杉並花笠祭りを開催しています。お取引先にご協力いただき出店ブースの他、地元商店会と当社社員による花笠踊りパレードや抽選会等のイベントもあり、毎年2万人以上の方々にご来場いただけます。いも煮やサミットファームで収穫した白菜等をチャリティにて提供し、募金は全額、杉並区社会福祉協議会に寄付します(2018年は516,368円)。2014年からは、毎年、公益社団法人企業メセナ協議会による「This is MECENAT」認定を受けています。

ペットボトルキャップ回収でワクチン寄付

店頭回収したキャップの売却代金を、認定NPO法人「世界の子どもにワクチンを日本委員会」(以下、JCW)に寄付しています。JCWは、UNICEFと協力し、発展途上国の子供達に届けるワクチンを購入し、また、保冷輸送する環境を整備します。2019年3月に、2018年3月～2019年2月に回収したキャップの売却代金として459,250円(ボリオワクチン約23,000人分相当)を寄付しました。

「レジ袋は、いりません。」キャンペーン

東京都環境局が主催するレジ袋削減キャンペーンをお手伝いしました。子供からお年寄りまでたくさんの方々に、レジ袋やプラスチックごみの現状について、クイズを通して学んでいただきました。



イキイキと働く職場

サミットで働くことを「幸せ」と感じ、心身ともに健康に働き続けられる職場づくりを

ライフスタイルに合わせた働き方

理想的な働き方は、社員一人ひとりによって異なります。サミットでは、勤務場所と時間を決めて働く「パートタイム社員」、それらを限定しない「正社員」の他に、勤務エリアを固定した「地域限定正社員」を選択することができます。ライフスタイルとのバランスを考えて勤務を制限したり、試験等の選考を経て社員区分を変更し、キャリアアップすることも可能です。



子育てと仕事の両立を支援

サミットでは、パートタイム社員等を含む全社員の内、約65%が女性です。その女性社員達が働きやすい制度と環境を整備することを目的に、2016年、人事部内に「女性活躍推進グループ」を設置しました。

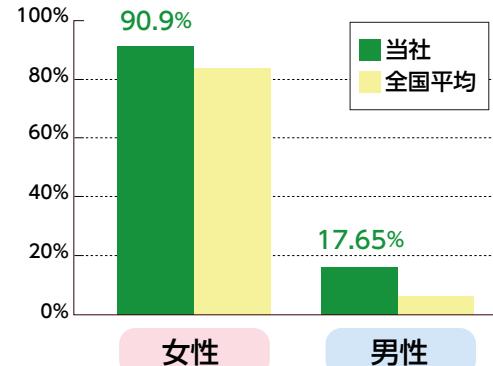
もっとも注力していることは、パパママの仕事と育児の両立支援です。サミットでは、法定よりも長期にわたり、産前休業を取得したり、短時間勤務をしたりすることができます。

	法定	当社
産前・産後休業	産前 6週間 産後 8週間	産前 8週間 産後 8週間
育児休業	1年間(※)	1年間(※)
育児短時間勤務	3歳まで	小学校3年生修了まで

※保育所に入所できない場合は最大2歳まで延長できます。

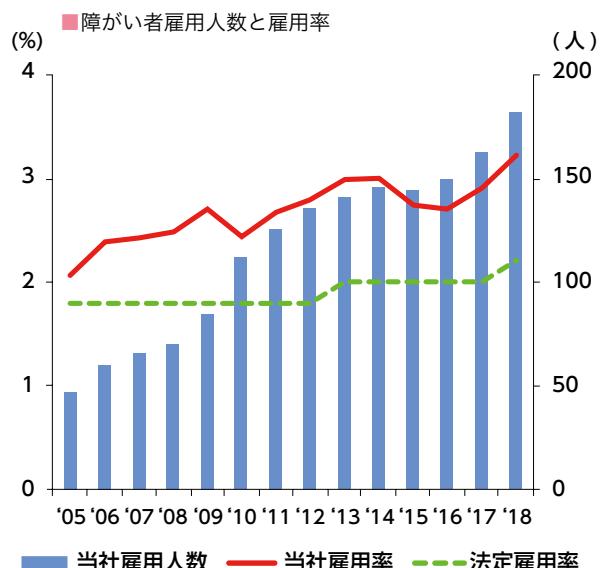
その制度を利用しやすい職場環境を整えるため、社内の理解を深めるのも女性活躍推進グループの仕事です。男性社員による育児休業取得も推進しており、取得の事例を社内に紹介するなどして、気兼ねなく相談できる環境づくりに努めています。

■育児休業取得率(2018年度実績)



障がい者の積極的雇用

サミットは10年以上にわたり、法定雇用率を上回る障がい者の雇用を継続しており、2019年5月現在、192名の社員が働いています。障がいを持つ学生の採用を円滑に進めため、45校の特別支援学校と協力関係を築き、進路指導の先生や生徒の保護者の方々ともコミュニケーションを図りながら採用を進めます。9週間の店舗研修で一人ひとりの適性を確認してから仕事内容を決め、入社後も同じ店舗に配属するので安心です。また、人事部の障がい者雇用担当者が頻繁に店舗を巡回して本人と面談し、職場では皆が「親の気持ち」になって見守るなど、きめ細かくフォローしています。



目指しています。



サミットの働くママさん

東中野店 総菜部門
篠崎 美音



2人の子供を育てながら総菜部門で働いています。1人目の子供を出産後は7時間の時短勤務していましたが、現在は5時間勤務にしています。勤務地やその時のライフスタイルに合わせて勤務時間を選べるので助かりました。職場復帰の当初は、休業に入る前と様々な手順が変わっていて戸惑いましたが、一緒に働く皆さんのおかげで無理なく働くことができました。今後も、家族と職場の理解に感謝しながら、最大限の力を発揮できるようがんばります！



パパも育休取得！

藤沢駅北口店 グロサリー部門
長久保 勝弘
(育児休業取得期間：3ヶ月)



Q. 育休取得のきっかけは？

A. 1人目が生まれたとき、あまり育児や家事を手伝うことができず、妻に迷惑をかけてしまった反省があったことです。今回は妻から、「家事を分担してくれたおかげで、体を休めることができた」と喜ばれました。

Q. 育児休業中はどんな生活でしたか？

A. 上の子の面倒をみたり、朝食作りや保育園の送り迎え、洗濯や掃除などもしていました。育児の大変さを痛感することができましたし、何よりも家族と有意義な時間を過ごせてよかったです。

これらの取組みが評価され、2019年、子育てサポート企業として3回目の「くるみん」認定を受けることができました。今回の認定は、17年1月から18年12月までの2年間で「男性社員の育児休業を10名以上取得する」「育児休業や介護休業、短時間勤務制度について管理職に研修を実施する」と計画した内容を達成できたことによるものです。

外国人技能実習生の受け入れ

2016年より「外国人技能実習制度」(※)を活用して実習生の受け入れを開始し、2019年5月現在、134人のベトナム人実習生が働いています。来日後スムーズに業務が行えるよう、日本語が堪能なベトナム人正社員が、マニュアルや作業場の表示を翻訳し実習をフォローします。また、日本語研修のほか、ごみの出し方等の生活ルールの説明や、通院等の困りごとの相談などにも応じ、心のケアにもあたっています。技能や日本語の習得だけでなく、日本の文化も学びながら、サミットの一員として働いています。



※開発途上国の経済発展・産業振興の担い手となる人材育成を行うため、外国人の実習生に日本の技能・知識等を習得させる公的制度。

コミュニケーションを大切に

楽しいお買い物は、会話が生まれる売場から。

お客様との会話をヒントに、より良い店舗を目指します。



案内係

お客様に快適にお買い物していただけるよう、専任の「案内係」を配置しています。売場を巡回し、お困りの様子のお客様に積極的に声をかけます。売場の案内はもちろん、調理方法や類似品との違い等の質問に対しても、タブレット端末で調べながらお答えします。商品の要望については、すぐに店長や本部のバイヤーとも情報を共有し、品揃えできないか検討します。お客様との会話から、ご要望や課題にいち早く気づくことができ、改善につなげやすくなりました。頻繁にコミュニケーションを図ってきたことで、お客様からも気軽に声掛けいただけるようになりました。



消費者モニター制度

毎年、対象店舗を決め、月に一度のモニター連絡会で、経営トップ自らモニターの方々からご意見を伺います。生活者であるモニターの方のご指摘は、私たちの気づかない細かい点に触れ、商品、サービス、売場の改善に、大変参考になっています。

現在までに延べ1,000人以上の方にモニターをお願いしています。



試食コーナー「おためし下さい」

複数の商品を一度に試すことができる試食コーナーを新店・改装店を中心に設置しています。新商品やおすすめ品の他、お客様からのリクエストに応じて試食を提供しています。気になっていた商品が気軽に試せると、多くの方にご利用いただいている。



イートインスペース

「私の喫茶室」「サミCafe」

購入した商品を食べたり、休憩したりできるコーナーです。新店や改装店舗では、淹れたてコーヒーやフレッシュジュースを販売しており、パンや総菜でお食事をされるお客様も増えています。一部店舗には小さいお子様が遊べる「キッズスペース」も設置しています。お仲間同士でおしゃべりを楽しむなど、地域のコミュニケーションの場としてご利用いただいている。



環境活動・社会貢献活動年表

年	活動内容
1990	第1回大宮八幡宮杉並花笠祭りを開催
1991	お買物袋持参運動(スタンプサービス)開始 廃油、発泡スチロール箱のリサイクル開始 発泡スチロールトレイ、紙パック、アルミ缶店頭回収開始
1994	紙パック店頭回収全店導入 紙パック、アルミ缶売却代金の環境団体などへの寄付開始
1995	ペットボトル店頭回収開始
1996	発泡スチロールトレイ店頭回収全店導入
2002	生ごみのリサイクル開始 レジ袋不要カードの導入、お買物袋持参運動をスタンプサービスからポイントサービスに変更
2004	紙ごみのリサイクル開始 使用済蛍光灯のリサイクル開始
2005	ISO14001認証取得 ペットボトル自動回収機設置開始 クールビズ開始
2006	(財)オイスカと協同し、第1期「サミットの森」整備支援('06年～'10年)と「間伐材を使ったつみ木の普及活動」支援を開始 杉並区の8児童館と大宮幼稚園にヒノキの間伐材を使ったつみ木合計6万個を寄贈 社員ボランティア・新入社員研修で森林整備活動を開始
2007	杉並区の成田東店でレジ袋有料化開始 世田谷区の5児童館にヒノキの間伐材を使ったつみ木2.5万個を寄贈
2008	内側がアルミコーティングされた紙パック店頭回収開始 杉並区の西永福店でレジ袋有料化開始 江戸川区のすぐすぐスクール6箇所にヒノキの間伐材を使ったつみ木3万個を寄贈 埼玉県川口市の川口赤井店でレジ袋有料化実施('08年11月～'09年3月)
2009	杉並区6店舗でレジ袋有料化開始(区内店舗全店有料化) 大田区の児童館にヒノキの間伐材を使ったつみ木3万個を寄贈 生ごみの循環型リサイクル開始 地球がよろこぶボーナスポイントセール等の支援金により「サミットの森」森林整備活動を拡大
2010	三鷹市、府中市、練馬区にヒノキの間伐材を使ったつみ木合計8万個を寄贈 ペットボトルキャップ店頭回収開始
2011	横浜市の放課後キッズクラブ等にヒノキの間伐材を使ったつみ木合計3万個を寄贈 第2期「サミットの森」整備支援('11年～'15年)開始 オリジナルエコバッグの販売を開始
2012	「ママとルンルン夏休みツアー」で「サミットの森」見学を開始
2013	「赤ちゃん木育広場」の普及活動支援開始、杉並区社会福祉協議会に木育おもちゃ20セットを寄贈 「スーパーマーケットミュージアム」開設('13年11月20日～'14年1月26日)
2014	世田谷区の児童館と子育て支援団体等に木育おもちゃ20セットを寄贈
2015	「サミットファーム」にて農業活動開始、「ママとルンルン夏休みツアー」で収穫体験を開始 中野区の児童館と子育て支援団体等に木育おもちゃ15セットを寄贈
2016	「平成27年度 障害者雇用優良事業所等の厚生労働大臣表彰」受賞 豊島区の児童館と子育て支援団体等に木育おもちゃ15セットを寄贈 外国人技能実習生の受け入れを開始
2017	環境マネジメントシステムの環境方針を改訂 北区の児童館と子育て支援団体等に木育おもちゃ15セットを寄贈 日本女子サッカー「なでしこリーグ」2部所属の「スフィーダ世田谷FC」とスポンサー契約を締結
2018	創業55周年記念事業として武蔵野美術大学と連携し「サミットエコバッグデザインプロジェクト」を立ち上げ 品川区の児童センターと子育て支援団体等に木育おもちゃ15セットを寄贈
2019	第3期「サミットの森」整備支援('19年～'24年)開始 次世代育成支援対策推進法に基づき、子育てサポート企業として3回目の「くるみん」認定を取得

会社概要 (2019年3月末現在)

設立：1963年7月29日

営業開始：1963年10月24日

資本金：39億20百万円

売上高：2,729億75百万円

経常利益：77億38百万円

従業員数：正社員 2,515人

パートタイム社員7,338人(※)

※1日8時間、月20日換算による人数です。

平均年齢：36.5歳(正社員のみ)

事業内容：食品スーパー・マーケット及びその他生活

関連商品の小売チェーン

加盟団体：日本チェーンストア協会

オール日本スーパー・マーケット協会

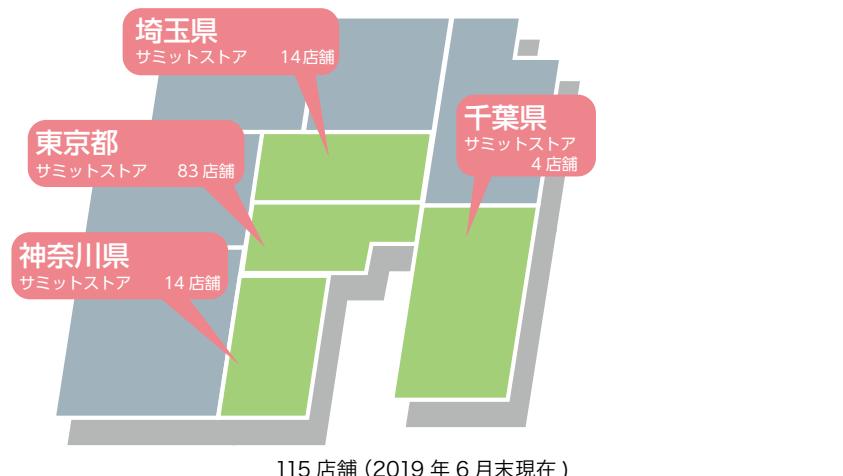
日本スーパー・マーケット協会

国民生活産業・消費者団体連合会

東京商工会議所他

子会社：株式会社サミット・コルモ

地域別出店数



社会・環境報告書について

対象組織：本部、サミットストア(スーパー・マーケット)

対象期間：2018年4月～2019年3月

(一部、上記期間以前・以降の情報も)

掲載しています)

問合せ先：サミット株式会社 広報室

〒168-8686 東京都杉並区永福3-57-14

TEL:03-3318-5020

社会・環境報告書は当社ホームページでも
ご覧いただけます。

<http://www.summitstore.co.jp/>

発行：2019年6月

前回発行：2018年6月

次回発行予定：2020年6月



※本報告書は環境にやさしい「間伐材印刷用紙」ならびに「植物油インキ」を使用しています。